

環境先進国

ドイツから学ぶ

20

吉田 浩巳



平城遷都1300年祭が開かれている平城宮跡会場で、さる7月10日に県主催のNPOフェスタが行われました。

海外からも多くの方が訪れる「お祭り」の場で、行政が「NPO」をテーマに広く情報発信するイベントを開催したことは、今まで考えられないことではないでしょうか。少なくとも行政のNPOに関する認識が大きく変化し、行政職員のNPOへの理解度と関心が、県レベルではかなり高まってきたといえます。

環境問題について提言する」というテーマで講演をいたしました。

この中で私は、環境問題を中心にさまざまな疑問に関して、一人一人が声を上げていけば必ず制度も社会の構造も変わっていくと訴えました。特にドイツの市民が声を上げたことにより、勝ち取ってきた事例を交えてお話しいたしました。

行政は、NPO等の市民活動の取り組みを紹介し、公共サービスは行政だけが担うものではなく、民間でも分野によっては専門性を

NPOと行政の協働

地域への情報発信必要

さて、このイベントでも「ドイツから学ぶ環境政策、1300年の時空を超えて、今、この平城京から

生かして行政が行う公共サービスよりも、より充実したものを提供できることを発信する役割があります。

いかにNPO・企業・行政の協働がこれからの地域づくりには有益なのかを県民に発信していくことが重要ではないかと思

ることができま。幼稚園の教育でも、ドイツには注目すべき特色があります。その一つが「森の幼稚園」です。「森の幼稚園」とは、都会の中に建物を意味しているのではなく、森の中の人里はなれたところに小さなログハウスの園舎があり、「教材も自然である」というコンセプトで行われているのです。

次回は環境教育の一環としてドイツで広がりを見せている森の幼稚園について具体的に触れてみたいと思います。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

毎月第2、第4、第5

水曜日掲載



森の幼稚園でモニカ・ムンチ園長が子どもたちと本を読み聞かせしている。ドイツ・ラインランド・ファルツ州のマインツ・ヒンゲン郡にある森の幼稚園「ボイムリンゲ」